

My Polaris 清水院長の ポラリス

ボラリス(北極星)を目指すには
北極星を見分けること。
目指すところ(方向)は一緒でも
やり方はそれぞれ多種多様。
一人一人の思いをエッセイの形で
伝えたい。

ときめき Beating Kashima 鹿島

院長 清水 保孝

平成31年、新しい年を迎え、新春のお慶びを申し上げます。

鹿島病院は、昭和63年に開設後、平成6年に医療法人財団公仁会が設立され、当初、介護療養病床135床の慢性期病院でしたが、平成13年に増改築とともに、医療療養病床(108床)が開設されました。平成15年に特殊疾患療養病棟(60床)、平成20年には回復期リハビリテーション病棟(27床→57床)、平成29年には地域包括ケア病床(26床→29床)が開設されました。この平成の30年間に大きく変貌発展を遂げ、現在の177床の亜急性期(回復期)中心の鹿島病院になってまいりました。

未曾有の高齢化社会で、重度の亜急性期から慢性期の患者さんを受け入れて、できる限り在宅へ帰していくという使命を担って、日夜充実した医療、介護が展開されており、松江市橋北地区において欠くべからざる病院として発展しています。リハビリテーション、看護、介護、ソウシャルワーカーなど、全職種の医療従事者が協力しながら、多職種連携により、充実した慢性期医療が展開されています。

本年は平成の時代が終わり、新しい時代の幕開けとなる年でございます。当院の皆様が、各々の職場職域ごとに、鹿島病院の医療をさらに発展させていただくよう期待しております。

本年もどうぞよろしくお願い申しあげます。



亥年
職員

今年の抱負

リハ部 井川 明帆

新年明けましておめでとうございます。人生2度目の年女を迎えるました。亥年には「無病息災」の意味もある年とされています。去年は体調を崩す事がありましたので、来年は体力を付け、体調管理をしっかり行い日々元気に過ごしたいと思います。仕事面ではスキルアップを目指し、プライベートでは趣味を充実させ、上がらないであろう女子力の向上を目標に頑張りたいと思います。今年もよろしくお願ひします。

看護部 金坂 晴美

平成16年1月に入職し、15年が経ちました。いろんな事があり、またいろんな人との出会いがあったように思います。その中でも特に大きなイベントが地域包括ケア病床の開設と課長任命でした。正直不安しかなったのですがスタッフの方々、他職種の皆様のサポートがあり、これまでやってこれました。まだまだ力不足な私ですが、これからもよろしくお願ひします。

今年も出会いを大切にして公私共に充実した年にしたいと思います。

看護部 内田 香寿美

新年明けましておめでとうございます。昨年は仕事もプライベートでも楽しく充実した一年を過ごすことができました。今年は平成が終わり、新年号になります。新たな時代が来ることに期待しつつ、「心機一転」を今年の抱負として頑張っていきたいと思います。2019年が良い年にできるよう楽しみながら一年を過ごしていきたいと思います。今年もどうぞよろしくお願ひします。

看護部 拠谷 真弥

新年明けましておめでとうございます。今年の抱負は断捨離することです。昨年は引越しをして無駄な物は捨てたつもりでしたが捨てられず、取り合えず取っておこうという物がまだ沢山ある事に気付かないフリをして半年経ちました。見て見ぬフリはもうやめにしてしっかり断捨離します。もう一つは健康でいることです。年々元氣でいることが大変になってきたと感じています。子どもを抱っこして歩くから運動になっていると言いました。まずはストレッチすることから始めてみます。今年も宜しくお願ひします。

事務部 辻 紗耶可

鹿島病院に入職して半年がたちました。仕事は楽しくさせて頂いてますが、まだ不慣れなところがあり勉強不足を反省する日々です。家庭でも2歳の息子がおり、言葉を話し始めたり、自分で着替えたりと、出来ることが増えてきたので教える親としても正しいことを教えていかないとな、思いながらも、はたしてこれであつてのかと迷ってしまうことが多いです。今年の抱負としては、仕事の知識も育児の知識も勉強して自信を持てるよう努力していくことを思います。何かと便利でスマホに頼りがちですが、子どもがスマホに触りたがるので、本で勉強していくことを思います。

医 師 東 耕一郎

自由気ままに、そして流されながらの48年間。これから何かしたい事をみつけようと思います。

A HAPPY NEW YEAR 2019

看護部 堀 美幸

鹿島病院に入職して10年経ち初めての年女になります。今年は亥年で「猪突猛進」と言われていますが、実際私も若い頃は「思い立ったが吉日」な性格でした。しかし年を取るにつれて臆病や億劫になってきておりながらも、実感しています。今年はせっかくの年女なので「猪突猛進」「とりあえずやってみよう」精神で行きたいと思います！プライベートでは家族が毎日元気で笑顔で過ごせることを抱負にしていきたいです。

看護部 山崎 恵子

明けましておめでとうございます。入職して1年が経ち業務にも慣れてきました。2019年の目標は体力をつけることです。日々、体力の無さを感じながらもほとんど運動をしていないので、今年はウォーキングを始めようと思っています。

それと、昨年オーブンレンジを買い替えたので、料理やお菓子作りに挑戦したいです。また、仕事では、知識を深め経験を重ねることでより良い看護を提供できるように努力していきたいと思います。今年もよろしくお願い致します。

リハ部 三浦 正也

新年あけましておめでとうございます。年男ということで今年の抱負を述べさせていただきます。昨年は学生が終わり無事社会人となることができました。社会人の責任の重さ、自分の技術、知識の無さを改めて感じた1年となりました。今年は、患者様の為にできることを考え、スキルアップしていきたいと思います。またプライベートでは貯金がなかなかできなかったので、貯金し、プライベートも充実していきたいと考えています。鹿島病院2年目。今年もよろしくお願ひします。

看護部 山根真衣

この度、年女を無事に2回迎えることができました。とても嬉しいです。猪肉は栄養価が高く、病気予防になることから無病無災の象徴とされています。個人的な抱負として、病気をせず、健康に過ごせたらいいなと思います。また、四字熟語の猪突猛進の言葉があるように看護師として患者さんの目標に向かって日々一緒に突き進みたいと思います。

また、看護師として3年目を迎えるが、猪も七代目には豕になるなんて言われないように、日々精進していきます。2019年も宜しくお願い致します。

在宅サービス部 森脇 由梨

今年で3回目の年女、鹿島病院に入職して3年目になります。私は今、介護福祉士の資格取得を目指して勉強をしています。介護の仕事に携わった期間は約7年、既に必要年数には達していましたが介護から離れていた時期もあり、資格取得までには至っていませんでした。しかし、介護報酬の変更などから通所サービスが通所リハビリテーションに一本化される中で、更なるスキルアップの必要性を感じ腰を上げました。子どもも3歳になりました、ますます成長して大きくなっています。私自身も子どもと共に、母親として、又、介護職としても成長していきたいと思っています。これが私の抱負です。

リハ部 米田 樹

新年明けましておめでとうございます。今年の抱負は「融通無碍」です。意味として一つの考えに固執することなく臨機応変に対応することです。去年は1つのことに集中しすぎる事があったので、今年は融通を利かせて様々な方向から物事を考えたいと思います。まだまだ未熟者ではありますが今年も宜しくお願ひします。

第26回 日本慢性期医療学会報告

10月11日・12日
鹿児島県開催

今学会で「食事の質向上と課題解決に向けての取り組み」という題で、昨年1年間の栄養課での取り組みについて発表させて頂きました。初の学会参加・発表で大変緊張しましたが、あのような場で発表する機会を頂き、とても勉強になりました。発表の中で、当院で提供している行事食についても発信することができました。

また、全国の発表を聞かせていただき、多病院での栄養課の取り組みも印象に残りました。嚥下食を食べておられる患者様にも喜んでいただけるスイーツバイキングや、かき氷レクなどを展開しておられ、大変刺激を受けました。他院での取り組みも参考に、今後とも自信を持って院外に発信していくよう、患者様に満足していただけるお食事を提供していきたいと思います。



診療部
樋野 早紀子

西郷どんブームで盛り上がる鹿児島で、会場から一望できる桜島にパワーをもらしながら充実した学会参加となりました。まず、集団レクリエーションの取り組みを全国の舞台で紹介することが出来て良かったと思います。また慢性期リハビリに関するシンポジウムに参加し、東京のあるリハビリ病院では患者の回復段階に合わせた関わりやチェックシートを用いたADL課題動作に向けた関わり、それを誰もが統一した対応が出来る様にシステム化され徹底されていること等様々な取り組みを聞くことが出来て参考になりました。他にも一般演題にて多職種の発表を聞き、様々な視点があり勉強になりました。今後、少子高齢化が更に進み、質を保つつも、より効率的な医療や福祉を提供していくことが求められています。その為に自分に何ができるのか考えさせられる良い機会となりました。



リハ部
曾田 良平

私は当院のことしか知らないため、他病院でどのような取り組みがあるのか全くわかりませんでしたが、他病院での取り組みを聞き、何処の病院も似たような悩みを抱えているのだと知りました。私たちは身体拘束の発表で行きましたが、他の発表でスピーチロックという聴きなれない言葉を耳にしました。拘束にはフィジカルロック、ドラッグロック、スピーチロックと大きく分けて3種類あり、その中の一つでした。内容は「ちょっと待って」や「危ないから立たないで」などの言葉で、日常的に病棟で使ってしまいがちな言葉でした。この発表を聞き普段何気なく使っている言葉も拘束になるのだと初めて気付くことができ、患者さんと関わるときに注意していこうと思いました。

また、日頃プライベートで関わることのできない方達とのふれあいもあり、有意義で楽しい研修になりました。

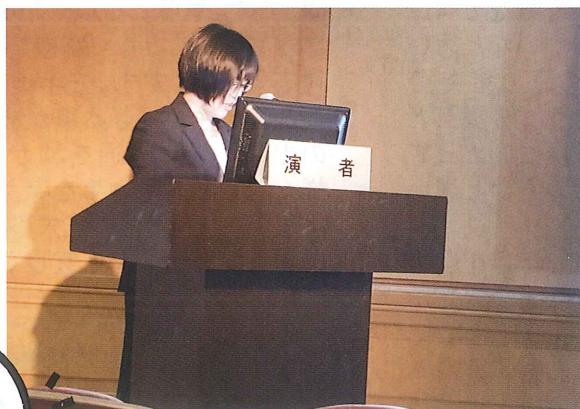


看護部
平塚 悠也

「身体拘束解除にむけての取り組み」という演題発表をさせていただきました。同様の発表も多く、どの病院も身体拘束についての悩みを持ち、取り組みをしておられることがわかりました。今回の研究で出た課題を含め、取り組みを継続していくことで、患者さんに安心・安全な入院生活を送っていたけるよう努めていきたいと思います。また、特別講演や他病院の発表を聞くこともでき、学びの多い2日間となりました。今回の経験や学びを共有し、活かしていきたいと思います。



看護部
朝倉 友里



〈発表の様子〉



〈鹿児島県会場にて〉

地域連携室便り

61



医療相談部 小林裕恵

「地域包括ケア開設 1年を振り返って」

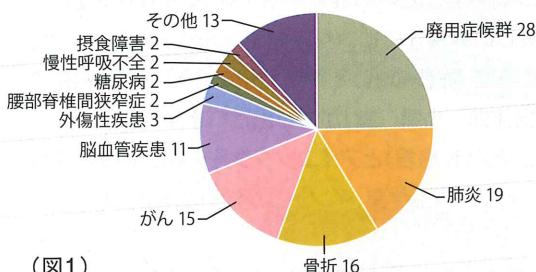
今回の地域連携室だよりでは、昨年10月に開設した鹿島病院の地域包括ケア病床の入退院の現状についてお伝えします。

地域包括ケア病床には、急性期病院からの入院受入に加え、自宅や介護施設等からの緊急入院受入を行い、その後在宅復帰支援を行うことが求められています。様々な入院ニーズ(軽症、医療依存度が高い患者のレスパイト入院など)には柔軟に応えつつ、在宅復帰支援は強く実施していく病床です。入院期間は60日以内、在宅復帰率70%以上であるということがルールで決められています。

この1年間に、223人の入院患者をうけいれました。急性期病院から紹介される方と、自宅や施設から紹介される方がほぼ半数ずつとなっています。入院された患者さんの主病名について、紹介元別に見てみましょう。

急性期病院からの紹介患者(図1)は、廃用症候群、肺炎、骨折、がんなどの疾患が多いことがわかります。具体的には「誤嚥性肺炎を発症し、急性期病院に入院。肺炎は軽快したもの、嚥下障害が残り、すぐに再入院の可能性がある、嚥下機能評価やリハビリをおこなってほしい」といった患者さんなどが入院されます。

急性期病院からの紹介



つぎに、自宅や施設から入院される方ですが、こちらは圧迫骨折や廃用、脱水、誤嚥性肺炎などの方が多いことがわかります。(図2)

具体的には圧迫骨折を発症した場合です。このような症状は、一般に、急性期病院入院の対象とならず、自宅で安静にすることと指導されることが多いのですが、高齢者の場合、安静にすることでたちまち活動性が低下してしまいます。こういった症状は包括ケア病床で対処できます。包括ケア病床ではADLの改善に重きが置かれているため、治療とともにリハビリテーションが重視されるからです。

また、包括ケア病床では、吸引や酸素管理など医療行為の必要な方を、自宅から、一時的に受け入れることも出来ます。

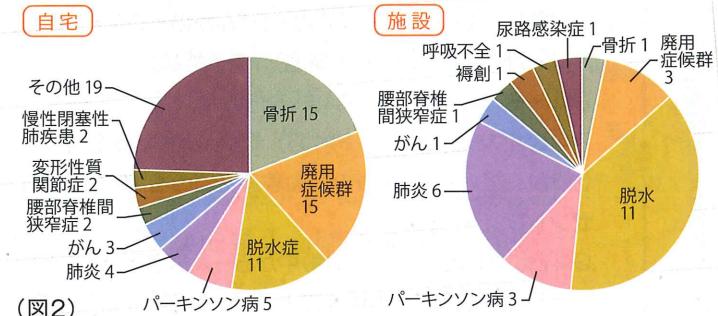
入院後は、すべての患者さんに対して、ご家族はじめ、医師、看護師、介護士、相談員、栄養士、リハビリ担当者、歯

科衛生士など、チームで話し合いながら治療を進めます。そして、この入院期間内に、定期的に病状説明をし、退院に向けての準備をしていきます。入院中は、治療、リハビリなどを中心に過ごしていただきます。食べることも大切です。脳梗塞や誤嚥性肺炎などの病気で、入院される前と食事の形態が大きく変わることがあります。普通食だった方が、トロミ食などになります。調理の仕方や栄養指導をさせていただく場合もあります。

自宅・施設からの紹介

自宅

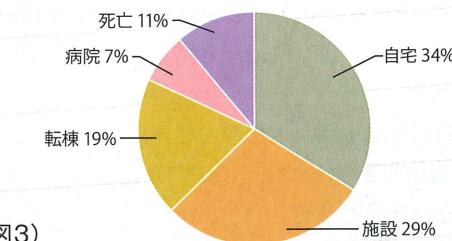
施設



最後に、地域包括ケア病床からの患者さんの退院先です(図3)

退院先は自宅や施設が合わせて63%となっています。自宅や施設への退院の希望をもたれ、それが上手くいき、患者さんや家族の皆さんのが喜ばれる姿を見ると、スタッフみんな、退院までのさまざまな苦労を忘れ、本当にうれしく思います。現在ではまだ十分にできていませんが、退院後訪問をこれからはもっとやっていきたいとも感じます。

地方包括ケア病床からの退院



包括ケア病床を作つてからは、病院全体の状況は今までと少し変わってきました。まず、高齢患者を疾患や医療区分にとらわれず、受け入れることになりました。緊急でも入院していただくため、地域診療所やケアマネジャーとの連携が進みました。退院先となる諸施設との連携も進みました。今後もこれらの連携をさらに進め、地域の方々が住み慣れた地域で安心して過ごしていただけるよう地域包括ケア病床を育てていきたいと考えています。

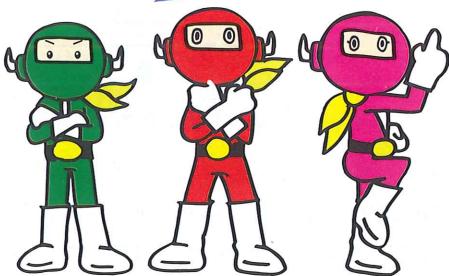


鹿島レンジャーに学ぶ(11)

~「鹿島病院の唄」大合唱への軌跡~

鹿島レンジャー小鯖先生をエスコートするの巻

診療部 医師 戸田博敏



心に灯(ひ)を灯(とも)す、するとそれは、また誰かの心に…。この原稿執筆中、平成最後の師走も日一日と過ぎて行きます。皆様いかがお過ごしでしょうか、来る2019年、皆様にとって輝かしい新年でありますようお祈り申し上げます。レンジャーたちが客席の小鯖先生をステージへエスコート(警護)します。

G(グリーンレンジャー; K介君) : 「なんかのってきましたね」

R(レッドレンジャー; K築君) : 「そうだな」

G : 「一曲なんか歌っちゃいましょうか?」

P(ピンクレンジャー; F村君) : 「じゃーちょっと待って、せっかくだから、俺たちの生の歌声をこの会場の人にプレゼントしようぜ」

G : 「ということは、この(会場)中から一人選ぶということ?」

R : 「そうだな、誰がいいかな?」 P : 「よし、誰にしようか?」

R : 「探しに行ってみようか、チョット合体してゆこう、行くぞ!」

R : 「ガチャ(合体する擬音語)」 P : 「ガチャ」 G : 「ガチャ」(会場笑)。(3人隊列を組んでステージから客席へ、まず審査員のところに向かう。

G : 「この中で、誰にしようか、誰がいいかな?」 R : 「誰がいいか?」

P : 「ちょっと待って、この人はどうですか?」

審査員 : 「俺で、いいんですか?」

R : 「いや! ちょっと待てよ」(会場爆笑) P : 「これはまずいかな」(小鯖先生の席に向かう3人。先生もうにこにこしゃって、子供みたい。)(レンジャーたち先生の前を通り過ぎようとして) P : 「ちょっと待ってよ」 R : 「どうした、どうした?」

P : 「あれ! いつも僕たちの舞台を見に来てくれるファンの方じゃないですか、いつも応援ありがとうございます」 P & G : 「よかったらどうぞ」 P : 「どうぞ」 G : 「どうぞ」(ステージの方向へ手を指し示し移動を促す。)

小鯖 : 「上にあがんの?」

P, G & R : 「あっ、ちょっと待って」(客席袖に隠れるようにしゃがみこむ3人。黒のサングラスをかけ、ピストルのおもちゃを持ち出し、レンジャーからSP^①に変身する。)

R : 「どうだピンク?」 P : 「ピンク、こちら異常なし」

R : 「グリーンは?」 G : 「グリーン、こちらも異常なし」

R : 「よし、行こう!」

G : 「さあ、どうぞ!」(SPに変身したレンジャー3人で小

鯖先生をステージへエスコートする。)

ステージ上、椅子に腰かけていただきました。椅子はスクリーンの方向に向けられています。さあ、何が始まるのかな、この時の先生、余裕の表情だとお見受けしました。

ハンドベル演奏「鹿島病院の唄」^②: 照明ダウン、スクリーンにタイトル「鹿島病院の1年」が映し出されます。すると、ハンドベルの音が聞こえてきました。医事課、外来看護師、臨床検査科有志によるハンドベル演奏です。曲目は「鹿島病院の唄」。

鹿島病院の一年: 春: 通所サービスの様子、夏: レガッタ、秋: 食中毒訓練、冬: 病棟でのクリスマス会、次々と映し出されます。院長先生(当時小鯖院長)に聞いていただこうという気持ちあふれる演奏です。ラストスライド、屋上で手を振る職員たち “院長先生お帰りなさい” の字幕がでてハンドベル演奏を終わります。演奏時間2分あまり。この時までは先生まだ余裕で見ておられました。

I岡さん(司会進行アナウンス): 「皆さん、ご起立下さい」 会場が総立ちになりました。意外にも客席最前列の来賓の方々も、事前の打ち合わせはなかったはずなのに瞬時にご起立くださいました。特別合唱隊、小鯖先生を取り囲むようにステージ下に、素早くさっと並ぶ。指揮者のM希君も悪役ボスからスーツに着替え、いつの間にかスタンバイ。

スクリーンに映し出される鹿島病院の唄大合唱カラオケスライド。美しい鉢植えのピンクのシクラメンが置かれた机、それは院長室、院長の机。それを背景に字幕「鹿島病院の唄」、「作詞作曲 小鯖 覚」が映し出されます。

M希君、ピアノ(K島君)とアイコンタクトすると指揮棒を振りおろす、ピアノの生伴奏、イントロが流れ出しました。

そして、

幼い頃の夢だった …♪ 病に苦しむ人のこころ …♪ ^②

解説:

平成20年(2008年)6月鹿島病院、前院長(故)小鯖覚(さとし)先生が悪性リンパ腫のため松江赤十字病院に入院されました。病と闘うリーダーに「全職員による鹿島病院の唄大合唱」をサプライズプレゼントしようと鹿島レンジャーを含む有志が立ち上がりました。その顛末を報告してきました。天が味方したか、小鯖先生が退院され、先生を囲んだ大合唱が実現することになります。

平成21年3月22日(日)鹿島病院院内研究発表大会、鹿島レンジャーの寸劇も終わり、レンジャーたちが小鯖先生をステージへ誘導します。

*1)セキュリティポリス(Security Police, SP)とは、日本の警視庁警備部警護課で、要人警護任務に専従する警察官を指す呼称である。ウイキペディアより抜粋。

*2)「鹿島病院の唄」 作詞・作曲 小鯖 覚

小鯖先生によれば鹿島病院に赴任された平成14年の11月頃作られたそうです。職員への唄の初お披露目は、大合唱の1年前、平成20年3月、やはり、院内研究発表大会において、I君(介護職)のギター伴奏で熱唱されました。先生が発病される、わずか3ヶ月にも満たない前のことでした。

第2回

施設×病院 食支援勉強会開催報告

11月16日(金)、第2回目の食支援勉強会を開催しました。松江市内施設や地域で活動する管理栄養士、調理師を中心に17名の参加がありました。



診療部栄養課
澤 幸子

今回の勉強会では、「食形態マップ」をどのように作っていくかを中心に話し合いました。食形態マップは近年、地域連携のツールとして全国各地で作製されています。食形態マップの意義は①各施設で提供されている食形態の情報を共有できる ②各施設の食形態を知ることで、自施設の嚥下調整食のレベルアップにつながる ③地域への情報発信ツールとなる、です。勉強会の前半は皆さん緊張した面持ちでしたが、後半のグループワークからは活発に意見交換を出されている方もいらっしゃいました。次回勉強会では皆さんに「鮭の塩焼きを常食から嚥下調整食まで展開し持参する。」という課題を出しています。

12月の勉強会では、参加者が持ち寄った食材試食しながら、食形態マップの土台作りを進めていく計画です。また、今後は食形態マップ作製と並行し、多職種から食支援に関する講義、各施設の取り組み紹介、症例検討などの企画をしています。地域で顔の見える関係を作り、病院、施設、行政という垣根を越えた食支援の取り組みを展開していきたいと思います。

Instagramでも情報発信中です。@kashimashokudoで検索してみて下さい!

私の犬自慢
亥年



診療部 澤 幸子さん



ビーグル2歳の女の子
“あんず”です。
特技はスリップパニcingです。



トイプードル8歳の
女の子“ラスケ”です。

事務部 潤倉 洋子さん



入職

- ①趣味・特技はありますか?
 ②好きなもの・好きなことを教えてください。
 ③一言ご挨拶をお願いします。



①ドライブ
 ②ランチに行くこと
 ③医療機関で働くのは初めてで、ご迷惑をおかけすることが多いとは思いますが、早く仕事を覚えて貢献できるよう頑張りますので、どうぞ宜しくお願い致します。

職員数

職種		職員数
医	師	7名
薬剤	師	2名
P	T	22名
O	T	19名
S	T	6名
看護師(准看護師)		89名
臨床検査技師		2名
診療放射線技師		1名
M S W		5名
介護支援専門員		6名
介護福祉士(介護職員)		60名
歯科衛生士		2名
管理栄養士(栄養士)		4名
調理員		9名
事務職員		17名
		251名

31.1.1現在

安達
美佳
薬剤部事務職員

平成31年1月4日 永年勤続表彰者

勤続25年 錦織 和美 安達 千代美

勤続20年 金村 真佐美

勤続15年 井上 倫実 小豆沢正実 金田 直樹 本庄 哲也 松浦 祐治
 山成 大治 永瀬 隆浩 小林 裕恵 福田 摩実 佐々木孝子
 山根 正恵 金坂 晴美

勤続10年 今田 桂子 永田 舞 松本 美幸 前田 晃子 森山 恵介
 為國理紗子 今田 直志 島田 裕子 濱崎 貴仁 林 まつ子
 西田 重美 横野香奈子 小村 和美

勤続5年 大塚 香原 田中 健太郎 田中 一 田中 優 山根 広紀
 丸谷 裕子 原田健太郎



退職

佐藤 洋子(看護部) / 廣江 径子(看護部) / 加瀬部 直美(診療部栄養課) /
 濱崎 舜(診療部栄養課)

公仁会事業報告

H30.10月.11月.12月

患者重症度指数 強化項目

リハビリ数

鹿島病院 ①外来

診療日数 65日		1日平均患者数
延べ外来患者数	1,232人	18.9人/日
②病棟 2F特殊疾患病棟		
診療日数92日		1日平均患者数
延べ入院患者数	5,103人	55.4人/日
レスピレーター装着延べ患者数	1,747人	18.9人/日
特殊疾患対象延べ患者者数	788人	8.5人/日
重度意識障害	2,394人	26.0人/日
神経難病	1,339人	14.5人/日
直近1年間の特殊疾患対象患者割合	86.2%	

3F回復期リハ病棟

診療日数 92日		1日平均患者数
延べ入院患者数	4,588人	49.8人/日
回復期リハ病棟対象患者割合		98.5%
平均リハ提供単位数		6.1

直近6か月間の新規入院患者	重症者の割合	34.1%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合		95.2%
直近6か月間の重症改善率(4点以上改善)		65.8%
直近6か月間のアウトカム実績指標		54.7点

4F療養病棟

診療日数92日		1日平均患者数
延べ外来患者数	2,532人	27.5人/日
直近3か月間の医療区分2・3の患者割合		93.3%
直近6か月間の在宅に退院した患者の割合		92.7%

4F地域包括ケア病床

診療日数92日		1日平均患者数
延べ入院患者数	2,364人	25.6人/日
A・C項目患者の割合		21.6%
平均リハ提供単位数		2.4

直近6か月間の在宅に退院した患者の割合 84.5%

短期入所療養介護

ショートステイ利用者数	22人	0.2人/日

在宅サービス部 ①通所リハビリ"やまゆり"

稼動日数77日		1日平均利用者数
通所リハビリ延べ利用者数	2,562人	33.3人/日
短期集中リハビリ実施数	358単位	4.6単位/日

②訪問リハビリ "つばさ"

稼動日数62日		月平均策定数
訪問リハビリ延べ利用者数	145人	2.3人/日
訪問リハビリ延べ単位数	354単位	5.7単位/日

③訪問看護 "いつくしみ"

稼動日数62日		1日平均利用者数
訪問看護延利利用者数(医療)	225人	3.6人/日
訪問看護延利利用者数(介護・看護)	627人	10.1人/日
訪問看護延利利用者数(医療・介護・リハビリ)	287人	4.6人/日

④鹿島病院やまゆり居宅介護支援事業所

稼動日数62日		月平均策定数
延べケアプラン策定数	462人	154人/月
延べ介護予防ケアプラン数	86人	29人/月



12/5

清掃ボランティア

サンラボー むらくもの職員の方
が清掃ボランティアに来てください
ました。ありがとうございました。
ありがとうございました。



12/12

おもちつきのようす

院内もちつき大会をおこない
ました。



医療法人財団公仁会 基本理念

私たちには、仁愛をもって「医療と介護サービス」を提供し、地域に貢献します。

医療法人財団公仁会 基本方針

- ①鹿島病院を中心に地域と連携して、良質な慢性期医療を確立します。
- ②患者様・利用者様の人権を尊重し、思いやりといつくしみの心で接します。
- ③技術や知識向上のため、たゆまぬ努力を行ないます。

医療法人財団公仁会 行動指針

① Safety …安全を最優先します。

② Speedy …変化に能動的に挑戦します。 ③ Service …おもてなしの精神で接します。

医療法人財団公仁会中期ビジョン2016

質の高い回復期・慢性期医療及び在宅を支える医療を提供し、
松江橋北地域の地域包括ケアシステムの中核を担う医療機関となる。

1. 良質な回復期・慢性期医療の提供(病院機能)

- (1)回復期医療の充実
- (2)良質な慢性期医療の提供
- (3)質の高いリハビリテーションの提供
- (4)看護体制の充実と強化

2. 在宅生活を支える医療の展開(在宅サービス機能)

- (1)良質なリハビリテーションの提供
- (2)良質な在宅生活支援サービスの提供

3. 地域連携 及び 地域貢献

- (1)病院連携・病診連携、地域(行政(県・市・保健・福祉・介護)、地区)連携

- (2)予防医療や介護技術を地域へ普及
- (3)地域への情報発信

4. 人材の確保 及び 育成

5. 医療安全・院内感染対策の推進

6. 医療サービスの質の改善への取組み

- (1)機能評価の評価に基づく継続的改善活動
- (2)臨床指標(Clinical Indicator)の検討・活用
- (3)患者満足度向上の組織的取組み
- (4)施設・設備・環境の整備と充実

7. 新電子カルテシステムの検討・移行準備

患者様・利用者様の権利宣言

平成21年10月1日改正

1. 個人の尊厳

患者様・利用者様は、ひとりの人間として、その人格・価値観などを尊重されます。
患者様・利用者様ご自身が意思表示や意思決定できない場合は、ご本人の尊厳を最優先にご家族と当財団のスタッフでよく話し合い決定していきます。

また医師から提案された医療・介護サービスに同意できない場合は、拒否することもできます。拒否することで不利益をこうむることはできません。

その選択にあたっては、他の医療・介護サービス機関の意見を聞く(セカンドオピニオン)ことができます。

4. 情報に関する権利

患者様・利用者様は、当財団で行われたご自身の医療・介護サービスに関する情報の提供を受ける権利があります。

5. プライバシー及び個人情報の保護

患者様・利用者様は、私的な生活を可能な限り他人に侵されない権利があります。医療・介護サービスの過程で得られた個人情報は、個人の秘密として厳守され、患者様・利用者様の承諾なしに開示されません。

鹿島病院臨床倫理の方針

平成22年1月1日制定(平成22年1月6日・部長会承認)

- 1.患者様の人权を尊重するとともに、患者様と医療従事者が協力して公正かつ公平な医療を提供します。
- 2.患者様ご自身が意思決定できない場合は、ご家族と十分に話し合い治療方針等を決定します。
- 3.終末期治療方針は、医学的に妥当で適切な医療を患者様・ご家族の同意の上、多職種よりなるケアチームで決定します。
- 4.患者様の信条や価値観を尊重した医療を提供します。
- 5.臨床研究は、倫理的審査を行った上で患者様・ご家族の同意に基づき実施します。



クリスマスローズ庭園



医師
坂之上 一史



10年程前からいろいろな種類の
クリスマスローズを育てています。



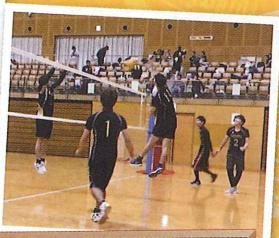
大会報告

第84回病院対抗バレーボール大会に参加しました

11月10日(土)島根県立浜山公園体育館(カミアリーナ)で開催された第84回病院対抗バレーボール大会に参加しました。県内医療機関から今年は男子13チーム、女子12チームが参加し、親睦を深めながら熱戦を繰り広げました。当院からは男子・女子が出場し、日ごろの練習の成果を十分に発揮し、楽しく、悔いのない試合をすることが出来ました。女子は予選、対安来第一病院(1-2)、対松江赤十字病院(0-2)と惜しくも予選敗退しましたが、ラリーが続き手に汗握る試合展開でした。男子は予選、対出雲市総合医療センター(2-0)、対安来市医師会診療所(2-0)と勝利し準決勝へ進出しました。準決勝では優勝した安来第一病院に0-2で敗れ、第3位となりましたがスパイクやブロックなど見せ場のある試合展開となりました。創部4年目にして第3位という好成績を収めることができました。

ご声援ありがとうございました。

バレーボール部 藤原法文 石橋莉加子



男子

優勝 安来第一病院

準優勝 島根県立中央病院

3位 島根大学医学部付属病院

3位 鹿島病院

女子

優勝 松江赤十字病院

準優勝 島根県立中央病院

3位 加藤病院

3位 出雲医療生活協同組合

編集後記

平成も残すところあとわずかです。次の年号は現時点

で分からぬですが、馴染みやすい覚えやすいものが良いですね!年々時の流れが加速しているように感じますが、振り返った時に皆さん何を感じられるのでしょうか。穏やかな日々も良いと思いますが、一年一年がより輝きその瞬間毎を楽しめるよう充実した年にしていきたいものです。

今年も皆様の御活躍をお祈りいたします 広報委員会

■編集・発行・責任者：広報委員会委員長

医療法人財団公仁会 TEL 0890-0803 島根県松江市鹿島町名分243-1

e-mail ksm@kashima-hosp.or.jp http://www.kashima-hosp.or.jp/

鹿島病院 TEL (0852)82-2627㈹ FAX (0852)82-9221

訪問看護ステーション(いくくしみ) TEL・FAX (0852)82-2640

やまゆり居宅介護支援事業所 TEL・FAX (0852)82-2645

通所リハビリテーション(やまゆり) TEL・FAX (0852)82-2637

印刷元 さんきゅう印刷

